

様が今頃居したら斯様な事はありませぬものを何故實母は梅を殘して死亡じまつたでしようか、最一度實母の顔が見たういします。」

語る少女より聞いて居る娘の方が一層の悲しみを催して兩袖を顔に推當て獻款して居つた、娘はつと起つて奥の間から雙子縞の一度ばかり水に浸したやうな綿入を一枚持つて來て。

「お前に此の綿入を上げるから仕立直して着なさい。」と花賣娘に渡した。

少女は餘りの事に難涙を流して、厚く禮を述べ歸つた。

その後、これを憐れに思つてこの家に花賣娘を下女に使うことにして、今も尙ほまめしく奉公してゐるとのこと、少女の歳は今年丁度十七で名を梅と呼び、妾の聞いた實際の話であります。

東京便り

▲親愛なる讀者諸君諸姉、其後は筆硯愈々御盛大の御事と存じ候。借も本年は兎角不順勝ちにて、折角の夏休みも大方夏らしき夏なくて相過ぎ申候。海水浴場や温泉場等の避暑地の不景氣なりしは致し方なしと諦め候はんも、全國擧つて稻の平年作を見る能はざるがため、地方の農家の心痛一方ならぬは誠に氣の毒の至りに候。小生の參り候東北地方に於ては、先づ六分作ならんかなど申され居り候。

▲諸君諸姉、前便申上候通り本年當會開設の保育法夏期講習會はまことに都合よく參り候。會するものは北海道より南は朝鮮、臺灣より殆んど全國の斯道篤志家を吸集致し候。其數百七十名、内、本會會員百五名會員外は六十五名、之を東京と

地方とに區分すれば、東京は百二十四名、地方四十六名の割合と相成り、殊に右の内男子聽講者十名を算へ候。講師の熱心と聽講者の熱心とは實に他の講習會に於て希に見る所の光景に相見へ申候。卷首掲ぐる所の寫眞版は即ち、廿九日御茶の水幼稚園に於ける茶話會の際撮影せし所のものに在り。尙當講習會の講演事項は、或は本誌に順を逐うて掲載すべきか、或は其他の方法にて發表すべきかは目下考究中に御座候。

▲然しながら此の如きは尙本會の事業の一端に相過ぎ申さず候。本會の爲すべき事業としては例へば模範幼稚園設立の如き、保姆養成の如きも最も急を要する事業に有之候。何れ、諸君の御同情に由りて追々着手致し度くと存じ候。早々

先月中主任編輯者地方に旅行中なりしを以て本號編輯に關し遺漏の點少からず讀者の御了恕を乞ふ尙會報、會費領收等もすべて次號に讓る

明治三十八年九月

編輯部